

チベット旅日記

——「世界遺産」・ラサのポタラ宮などを訪ねて——

A Diary of Sojourn in Tibet:
Mainly Fainnly on the Visit to the Potala Palace,
a World Heritage Site in Lhasa

孫 勝 強

SUN sheng qiang

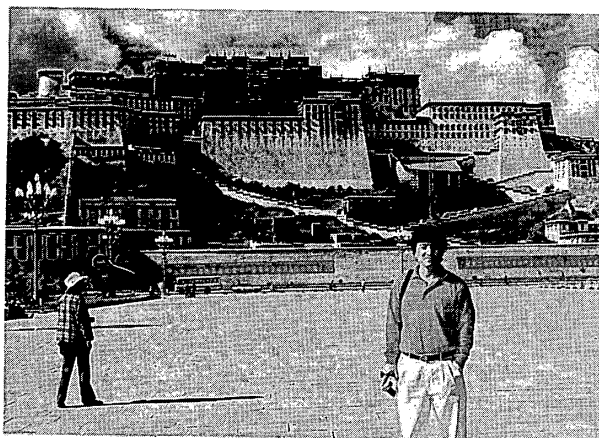
要 旨

1987年にはじめて中国の故宮、万里の長城などがユネスコの「世界遺産リスト」に登録されて「世界遺産」となってから、現時点で（2003年10月現在）文化遺産と自然遺産は全部で29カ所となった。筆者は10年前から毎年これらの世界遺産を訪ね歩いてきた。廬山、武当山、承德、平遥古城及び今年新しく加わった雲南省の三江併流など三ヶ所を除いてすべて訪ねた。中には敦煌の旅は四、五回を超えたが、その中で、去年の夏休みに始めて訪ねたチベット・ラサの旅は一年経った今も鮮明に脳裏に焼きつけられて忘れることができない体験であった。

チベット語で「神の土地」、日照時間が長いことから「太陽の町」とも呼ばれているラサは、私はいつか行こうと心に決めていたが、そのいつかがようやく実現できたのは2002年の8月だった。それまでに憧れのラサへ行きたいと思ったことが何回かあったが、高山病のことを考えて見合わせた。トレーニングのつもりで、三年前に標高3,200メートルのシャングリラと呼ばれている中甸を訪問した。二、三日滞在して白水台や松贊林寺などあちこち走り回ったが、何ともなかったので一応自信がついた。続いて二年前の夏に家族と一緒に世界遺産の麗江の玉龍雪山に登った。ロープウェイのゴンドラで、標高4,500メートルの地点まで行って、それから一時間半ぐらいかけて4,900メートルの展望台に登りつめて30分ぐらい写真とビデオを撮ったりした後、下山した。今度も大丈夫だった。この体験でチベットへの旅の決心がついた。断っておくが、この文章は論文でも調査報告でもなく、ただ、私の体験を伝えることが出来れば幸いである。旅行中に日記をつけたので、旅行日記の形で書くことにした。

キーワード

世界遺産、チベット、ラサ、ポタラ宮、高山病



ポタラ宮前の広場にて（2002年8月）

西安・洛陽・チベット 8日間の旅

期間 平成14年 8月23日(金)～30日(金)

旅 程

8月23日(金)

15:40 福岡発 WH290 便(西南航空)

17:40 青島着(青島経由)

18:40 青島空港発

19:40 西安着

8月24日(土)

09:00 「兵馬俑」見学

12:30 洛陽へ

19:15 洛陽着

8月25日(日)

「龍門石窟」見学

13:20 西安へ

19:30 西安着

8月26日(月)

09:15 西安発 SZ4217 便(西寧経由)

10:15 西寧着

11:00 西寧発

13:00 ラサ空港着

15:25 ラサ市内着

8月27日(火)

「ポタラ宮殿」外観

ラサ川散策

バザール散策

「ノル布林カ」他

8月28日(水)

「ポタラ宮殿」見学

「大昭寺」他見学

8月29日(木)

06:00 ラサ空港へ出発。

07:45 ラサ空港着

12:25 ラサ空港発(成都経由西安)

14:10 (成都経由)

15:25 成都発

16:45 西安着

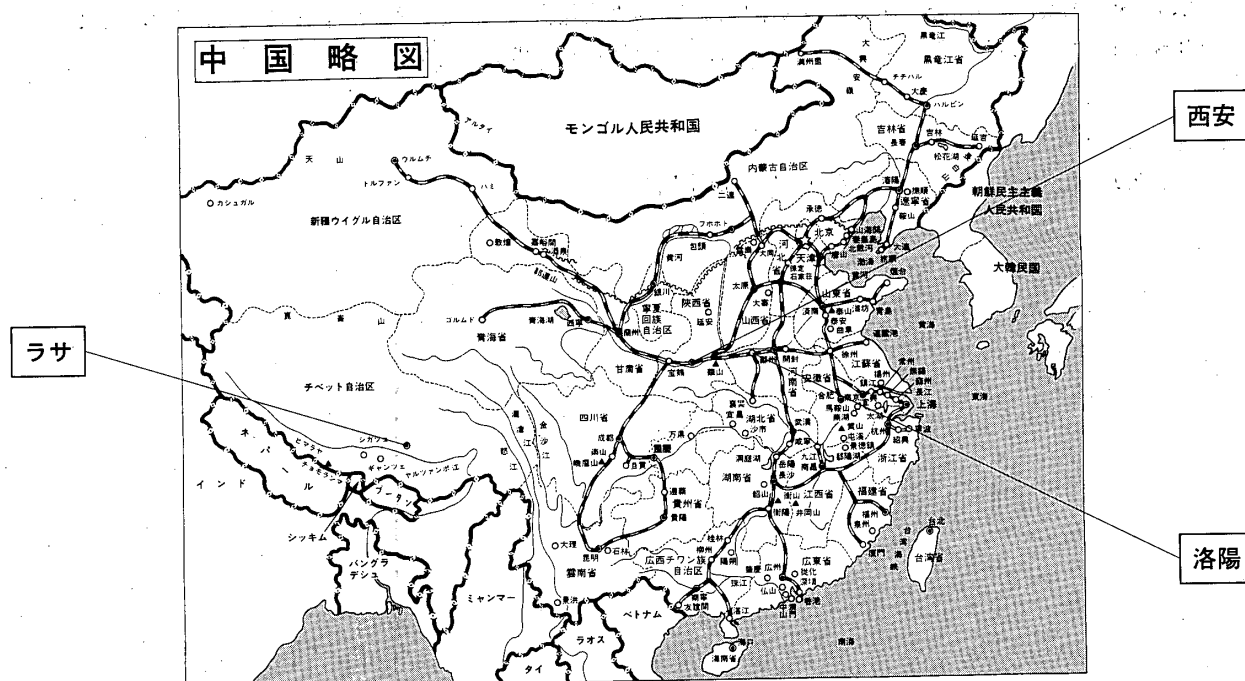
8月30日(金)

09:00 西安発 WH291 便(西南航空)

11:50 青島発(青島経由)

14:45 福岡着

* 時間はすべて現地時間



8月23日（金）晴れ

09:30 目が覚めたら、もう九時半。そうだ。
今日は久しぶりの中国旅行だ！ しかも
チベットだ！ 眠気も飛んで出発の用意
を急ぐ。

13:45 福岡空港着

国際線ターミナルには友達のTさん
がすでに待っていた。一人で心細いとい
うこともあって、誘ってみたら、行く！
行く！ という返事だった。

通関を済ませ、WH290 便（西南航空）
に搭乗。15:40 発の機内はほぼ満員。い
つもならガラガラ。近頃、中国への日本
人観光客も増えている。特に西安に人気
があるとか。

離陸して一時間後機内サービスが始ま
る。サービスも機内食も上々。冷やされ
たビールもある。数年前と比べると隔世
の感あり。

17:40 青島空港着（33℃）（日本時間は18:40）

青島はかつてドイツの租借地であった
ことからドイツ人によるビールの醸造が
はじめられ、現在、中国でもっとも有名
なビールの町としても知られている。毎
年の夏に、「青島国際ビール祭」が開催
されている。

入国手続きを済ませて再搭乗。青島で
の入国手続きについては、先の同時多発
テロのことも関係して、それぞれシュー
ズまで脱がされたり、時間がかかったり
して、手際の悪さに対しては日本人旅行
者のブーイングも聞かれた。青島空港は
私が今まで利用した中国の空港の中で、
もっともサービスが悪い。お客さんが買
い物したいのに休憩中という看板が出さ
れている。いまの中国にしては極めて珍
しいこと。

18:40 青島空港発

離陸後、また機内サービスが始まる。

今度は正式な食事ではなく、パン、ソー
セージなどの軽食が出た。それにして
も、数年前は国内線の場合、軽食も出な
かった。いま各航空会社も激しい競争に
勝つため、サービス充実の向上に努めて
いるという。

19:40 西安空港着

あたりはすっかり暗くなった。西安空
港から市街地まで約1時間。景色などは
見えないが、広くてまっすぐな道路は空
港と同時に完成されたそうで、走る状況
から見ても立派な高速道路であることが
わかる。

21:15 「皇城酒店」（酒店はホテル）着

午後10時過ぎの夕食になった。機内食
を食べたので食が進まない。

西安は、中国でもっとも歴史のある都
市の一つで、秦、漢、隋、唐など多くの
王朝がこの地の都を定めた。中でも唐の
時代には、長安と呼ばれシルクロードの
出発点として繁栄を極めた囲郭都市で
あった。

現在の人口は約600万人、うち少数民
族は約10%である。夏の最高気温は40℃
を超えることもあり、冬は氷点下になる
日も多い。「冬季小雨」型で降雨量は少
なく（年間数百ミリ）農業は畑作が中心
である。

23:30 そろそろ眠くなってきた。日本と中国
は一時間の時差があるので、もう十二時
半になったわけである。

8月24日（土）曇り

06:30 起床。

日本では、いつも遅寝遅起であるが、
不思議なことに中国に着てから早く起き
るようになる。

924号室から戸外の様子を見る。例に
よって太極拳をはじめ、自由に体操を楽

しむ人はたくさん広場に集まっている。

朝食は中華のバイキング。久しぶりに
油条（揚げパン）を食べた。

09:00 兵馬俑見学へ出発

曇っていた空も回復し、暑い日差しが
照りつける。道路の両側にはリンゴやザ
クロの木が目立つ。途中ザクロを栽培し
ている農家に立ち寄り、試食。まだ時期
が早くて殆ど味なし。

中国統一を果たした始皇帝は、即位と
同時に70万人の囚人を動員して自らの陵
墓を造らせた。その始皇帝陵を右手に見
ながら進む。

09:30 兵馬俑着

入館料（65元……これは全国で2、3
番目に高い料金）

1974年に井戸掘り作業中に、偶然無数
の陶器の兵士や馬車が現れた。死後の始
皇帝を永遠に守るために造られた兵馬
俑。現在も発掘中だが、その規模の大き
さに圧倒される。13歳で即位した始皇帝
が38年間の歳月と70万人の人力を結集し
て完成したと言われる兵馬俑。その権力
の偉大さに改めて感動させられる。現在
1～3号館が開館中。ちなみに開館当初
の入館料は1角だったそうで、現在は65
元、実に650倍のアップである。

12:30 洛陽へ出発（気温36℃）

本当は午後の便でラサへ行く予定で
あったが、航空券が入手できなくて、洛
陽の世界遺産「龍門石窟」を見物するこ
とにした。

途中、西安市内のレストランで昼食。
ここから洛陽までおよそ450km。バス
は黄土高原の高速道路をひたすら洛陽
へ。車窓の右手には頂上まで耕された
段々畑。（文化大革命当時に開発された
ようだ）

作物はトウモロコシが多い。子供のとき、
毎日主食として食べていたが、いま

は殆どが飼料用。13億の人が肉食を志向
したら、世界の穀物事情はどうなる？

と心配する人もいるようだが、心配で無
用かな？!

所所、ヤオトンの跡らしき穴が見え
る。

15:00 左手に黄河が近づいたり遠のいたりす
る。突然、荒天となり、風雨が強くなり、
バスが左右に揺れる。

15:50 日本の歌にも登場している「天下の
険」と言われた函谷関に立ち寄る予定
だったが、道が不案内で見学をあきらめ
る。

三門峡はすぐそこ。左手遠方の台地を
列車が走る。車両の数何と78両（貨車）。
なるほど遅い。

18:40 洛陽西インター着

高速道路はかなり整備されている。ち
なみに2005年までに全国の幹線は高速道
路で結ばれる予定とのこと。

19:15 洛陽「牡丹城賓館」着 *牡丹は洛陽
のシンボル

洛陽は、洛河の北に位置し、古来兵家
必争の地。東周、北魏など9つの王朝が
都をおいた。

中でも卑弥呼の存在を明らかにした
「魏志人伝」が書かれたのは魏の都がこ
こに置かれた時代。卑弥呼は、ここに遣
使を送り魏から親魏王の称号を受けたと
言われる。

夕食は大好物のラーメンだった。と
いっても日本のラーメンと味が違う。

24:00 就寝。明日は龍門の石窟見学だ。

8月25日（日）曇り

06:20 起床

06:30～07:20

ホテル前の公園を散策。日曜日でもあ
り、大勢の人々が太極拳やリズムダンス

に興じている。みんな、悠々としている。
羨ましい。

07:40 朝食

08:50 龍門へ向けて出発

09:20 龍門石窟到着。天気回復

電気自動車（5～7名乗り）で石窟へ。
入場門は黒山の人ばかり。

見学科は60元。

現存する石窟は計1,352カ所、仏像は97,000余体。この石窟寺院の造営は494年（北魏）に開され、唐代までの約400年間にわたって続けられたと言われる。残念ながら文化大革命のとき、顔やその他を破壊された痛々しい像も多い。

13:20 西安へ出発

昨日と同じ道路を一路西安へ向けて進む。

途中燃料を補給。ちなみに、ガソリン（汽油）は1リットル2.9元、軽油（柴油）は2.9元であった。（一元＝15円）

中国では石油会社は2社のみ。（中国石油と中国石化）

14:00 高速道路に入る。

15:45 三門峡サービスエリア

雷鳴轟く。

三門峡ダム（日本の地理の教科書に必ず載っている）を見てみたい。「距離はここからどれくらいですか？」「50kmくらいかな？」と行ってみようと思ったが、明日早くラサ行きの飛行機に乗るので行けないのが残念!!

19:00 高速道路に降りる。雨は相変わらず降り続く。

19:30 「東来順」へ。今夜は「火鍋」（しゃぶしゃぶ）だ！ ビールも美味しかった。

21:00 「皇城酒店」着

8月26日（月）晴れ

06:00 起床

06:20 朝食

07:15 西安空港へ出発

高速道路の路側竹箒を持った清掃夫が数キロ置きにいる。

08:15 西安空港着

09:15 いよいよラサへ向けて出発（西寧經由SZ4217 便中国西南航空）

中国のパスポートを持っている私の場合は、ラサへ行くには別に何も手続きが必要ないけれども、外国人観光客のチベットへの入境は現在、五人以上の団体ビザしか認められていない（03年8月現在）。したがって西安、成都などの旅行社が希望者を五人ずつ編成しなおし、即席バックツアーに仕上げて、ラサ旅遊局駐西安、成都弁事処から「通行証」を貰う。友達のTさんもそういう方法で「通行証」を貰った（チベットへの「通行証」料は50元）。もう一つの方法は、青海省のゴルムトで「通行証」を貰い、バスで入る手段である。しかし、バスだと、四日もかかるため、バックパッカー以外で、このルートからチベットへ入る外国人はいないという。

近年、中国経済の猛烈な成長とともに、中国人自身が国内名所を旅行するようになった。中でもラサは国内観光地としてたいへん人気があり、北京、上海、西安、成都、広州など主要な大都市からの飛行機はいつも満杯の状況である。他の国内線の値引き競争に対してラサ線は値引きは一切しない。西安—ラサ間の飛行機運賃は日本円換算四万円以上（往復）であった。

搭乗後、約1時間、眼下に黄土高原が広がる。まるで地形の模型図でも見ているような光景。

乾燥大地を「耕して天に至る！」荒涼とした中に緑の蛇行河川が見える。まさに命の水、黄河だ。水たまりのアメンボ

ウのように、人はありとあらゆる所に居住している。環境への馴化がすごい。

10:15 西寧航空着（気温17℃）

西寧は、海拔2,000メートル、青海省の省都である。当地で降りる客もかなり居た。待合室で45分間休憩。

11:00 燃料の補給などを済ませ再出発。ラサまで 1,600km。

30分ほどして眼下に「青海湖」が広がる。この湖は中国最大の塩湖で、面積4,427平方キロ（佐賀県の1.3倍）、湖面の海拔高度 3,000m、最大深度 38m。コバルトブルーの水を満々と湛えた美しい湖であった。

まもなくヒマラヤ山脈の北麓にかかり、頂上に雪を頂いたいくつもの独立峰が見える。友達のTさんもカメラ愛好家で有名。二人は童心に返り？ 機内を右往左往。

ラサに近づくと、眼下に濁流の大河が目にはいる。チベット最大の川ヤルツォンボ川のようなのである。（大雨の後か？）

13:00 ラサ空港着！ 海拔 3,560m 気温 15℃。

機外へ出ると風が冷たく、肌がひんやりと寒い。興奮して周りを見ると、今まで見たことのない青空に白い雲が目の前に浮かんでいるように見える風景ではないか。思わず「チベットだ！ 万歳！」と叫んでしまった私。

その直後に西安から着いたエアバス同型機からは中国国内ツアーの観光客が続々と降り立ち、早くも飛行場で携帯電話合戦が始まっている。みんなも相手に興奮の気持ちを伝えてるのであろう。その後、撮影ラッシュが続く。誰も止める人無く、軍事秘密などないところをみると、中国が変わっているという実感をした。これは数年前にはとても考えられないことだった。ラサどころか、普通の空

港でさえ撮影が禁じられていた。

13:35 マイクロバスで市街地へ出発。

出迎えてくれたのは江西省出身の大学の同級生で、旅行会社に勤めている。ドライバーは四川省出身と言うことで、いずれも漢民族であった。

道中、いろいろ説明してくれたが、車窓の右手のヤルツォンボ川は川幅が最大3キロメートルもあるとのこととびっくりさせられる。ラサには水がこんなに豊富とはちょっと意外。

説明によると三週間ほど大雨続いたとのことで、つい数日前までは空港で観光客が足めさせられたとのことである。それを聞くとシガツェへ行くことをあきらめた。

河畔の所々に旗のようなものつけた竹竿が見える。「あれは何ですか？」「水葬のあとです。」「水葬？」「はい、チベットにはいくつかの葬法があります。例えば鳥葬や火葬。水葬は子供や未婚の大人が対象になります。死体を魚に食わせることにより霊を慰めるのです。……」「？……」。

沿線の畑に、ちらほら農夫の姿が見える。作業の様子は子供の頃と同じような感じで郷愁を誘う。

15:25 「チベット賓館」到着

西藏賓館は三つ星の風格のあるホテルで、中央政府から来た要人は皆ここに泊まるという。したがって、なかなか予約できない状況である。ほかにラサホテル（数年前までは「ホリデイ・イン」）という三つ星の高級ホテルもある。主に外国人観光客が泊まる。日本人もほとんどここである。どのホテルにも携帯用の酸素ボンベが売られている。西藏賓館も一泊二万円弱するからチベット旅行は高くつく訳である。部屋に入ると部屋にもボンベ取り付け装置が付いている。高山病に

かかる観光客はよほど多いのだろう。いやな予感がちょっとよぎった。

明日に備えて、部屋でくつろぐ。室温が下がり、暖房を入れる。

夜中に何回かちょっと息が苦しくて目がさめた。

8月27日（火）晴れ

05:40 起床

昨夜の暖房が暑く、熟睡できぬまま目が覚めてしまった。

06:30 外はまだ真っ暗。しかし、気分はわくわくだ。

08:20 朝食

お粥などを食べる。気分とは裏腹に食が進まない。

09:15 出発。天気快晴。

まずはデブン寺へ

09:30 デブン寺到着

デブン寺は、市街地を見下ろす山の斜面にあるチベット仏教ゲルグ派の学院として1416年に建立された寺院で、多いときには200人の僧侶が修行していた。

参道には大人を含め、大勢の子供たちが座って、何か呪文を唄えながら観光客におねだりをする。かわいそうとも思ったが、お金は一切やらなかった。

現在は200人前後の僧侶が修行中ということだ。彼らはの主食は小麦粉を練ったものとバター茶である。人間は何を求めめるのが一番幸せなんだろうと考えさせられた。

11:50 デブン寺発 暑くなってきた。

12:00 ホテル到着

高山病に罹る可能性もあるということ、で、15:30分まで休憩。好奇心旺盛な友達のTさんはしばらく散策したいと言い出したので、心配して同行することにした。Tさんはラサ川（ヤルツオンボ川の

支流）の石ころを生徒への土産に持ち帰りたいということでタクシーで向かう。

ラサ川の水はやや濁っているものの水量は多い、岸辺を散策しているうち、「あれは死体ではないですか？」と友達が指を指す。近づいてみると、本当の人間の死体である。昨日バスの中で同級生の説明にあった「水葬」のあとをこの目で見ることになった。年の頃6～8歳くらいの女児で、手は肘から、足は膝から切断されており、水膨れの状態で首にはロープがあり、流れに沿って漂っている。私にはカメラにおさめる勇気が無く、合掌してその場を去る。（ちなみに友達は撮影したけど、写真にならなかったという。訳は聞けずにいる。）もちろん石ころの土産も断念。

バザールに行ってみようということになり、タクシーに乗る。タクシー代は市内一律10元ということで安心だ。

バザールでは果物、野菜、肉など食材から雑貨まで所狭しと並んでいる。肉はヤクの肉が中心だが、果物、野菜などは他所から運ばれてきたものは普通の二、三倍の値段で売っている。

15:30 ノル布林カへ出発

15:40 ノル布林カ到着

ダライ・ラマ8世が造園したと言われている広大な夏の離宮。4つの宮殿があるが、1954年に建てられた新宮は南欧風の建物で、1959年3月ダライ・ラマ14世はこの宮殿からインドへ脱出したそうである。一部しか公開されていないが、印象としては小さな王宮群の集まった公園のようである。いまは簡素な仏教寺院といった感じだが、当時としては立派な建築物だったろう。

17:30 ポタラ宮殿広場へ

目の前に宮殿お偉容が広がる。紫外線が強く眩い。明日雨ということで、今日

はまず外回りして明日はゆっくり内部を見物することに急遽に変更。今日のところ、とりあえず大事な記念撮影をする。

17:45 友誼商店へ

広場の一角に友誼商店が発見。今回の旅行で初めての友誼商店なので入ってみることにした。「いらっしやいませ。いかがですか」日本語で話しかけてくる。北京語で「不要」と言ったら、妙な表情でこちらをじっと見つめる。多分日本人と間違えられたらしい。チベット人から見て日本人も中国人も同じよう見えるのだろう。

18:05 チベット族の家庭訪問へ

今回ぜひチベット族の民家を訪問したいと思って市街地の一角にある民家に入る。外国人観客の場合はチベット政府が認めている家しか訪問することができない。家長のおばさんが迎えてくれたが言葉が内、通じないため、写真をとらせてくれたお礼に20元を差し上げてホテルへ戻る。

一日中歩き回りすぎたのか、途中何となくだるい感じがする。

夕食の途中、友達は気分が優れず部屋に戻った。結局、医者呼んで点滴を受けることになった。

体温27.8℃。頭が痛い。軽い高山病ということだ。念のために、私もついでに点滴をしてもらうことになった。

わが部屋は病室に早変わり。約2時間、夕食の時間というのに医者はずっと側に居てくれた。この時、初めて先生から高山病の予防は、なんと言っても大事なのは着いた翌日はゆっくり休んで慣れておくこと。その他の対策としては「①野菜を多くとる。②腹8分目に食べる。③風呂は控える。④アルコールやタバコを控える。……」ということを知る。後の祭りだ。別れに「点滴したらすぐなお

るよ」という一言で眠りにつく。

8月28日（水）曇り

06:30 起床

やはり先生の言うとおりで。気分はすっかりよくなった。

08:30 朝食

美味しく食べられた。食後、両替をする。2万円=1,348元

09:00 ポタラ宮殿

チベットのシンボル、ポタラ宮殿は行政の中心であると同時にラマ教の総本山であり歴代のダライ・ラマ（5～13世紀、ただし、6世を除く）が葬られている霊廟でもある。現存する宮殿は延べ床面積13万平方キロで、ダライ・ラマ5世の時代に建てられたもので、外観13層の高層建築群であるが、山腹に沿ってそびえ立つため、実際の威容は遥かに上回る。宗教儀式を行う紅宮とダライ・ラマが執務を取る白宮が宮殿の中心を形成する。極彩色のマンドラや壁画が内部を彩り、20万体を超える仏像、金銀の仏具、宝物が収蔵されている。

ダライ・ラマ14世の執務室と寝室が脱出した時のまま保存され、観光客に開放している。興味を引いたのは寝室にバスルームと水洗トイレがあることだ。ちょっと汚い話になるが、ポタラ宮殿で世界一番高いと言われているトイレを利用した。水洗ではなかった。その海拔は富士山とほぼ同じ。

入場料は70円でこの金額は文化遺産で中国二番目に高い。（ちなみに一番高いのは敦煌の莫高窟だ）ただし、地元の巡礼者は2元。薄暗い順路をおびた数人の観光客が進む。もちろん、チベットの仏教の信者も多数いる。

13:00 宮殿を去る

13:15 ホテルに戻り昼食。初めてヤクの肉を食べる。やや硬いが美味しかった。

休憩

16:00 大昭寺へ出発

雲天につき念のため、雨具を用意。気温18℃

16:15 大昭寺着

チベット仏教信仰の中心寺院。チョカン寺とも呼ばれる。本尊は、唐からチベットの王へ嫁いだ妃が持参した釈迦尼像（1300年前）という。この像をひと目見ようと、数ヶ月に及ぶ巡礼の旅をする人もいるとのこと。山門の石畳で五体投地（わが身をすべて大地に投げ出して仏に捧げること。ま、仏に対する最大の礼拝だ。）を繰り返す巡礼者があとを絶たない。テレビで見たことがある。立ち上がってはぬかずき、身を伏せる。大地に身を投げ出すのだから、胸も腹も膝も手足も泥にまみれ、続けてやるために衣服もすりきれ、皮膚もすりむける。何百キロ離れた僻地から五体投地をやって来ている人たちを見ると信仰心の深さに涙が出るほど感動を覚えた。

大昭寺を中心に旧市街にはチベット人が多く住んでいる。ポタラ宮以南の新開発区は高層ビルやデパートが並ぶ。両区域を結ぶ幹線は「北京東路」と呼ばれている。南北を走る道路は「娘熱路」。地元の人々に聞いたら、名前の由来は「別にハンサムな男でもいた」のではなく、チベット語の音に漢字をあてただけという返事であった。

17:15～19:00 「八角街」散策

「八角街」は大昭寺を取り囲む、ラサの一番の繁華街で、食料品や雑貨、仏画などが商店を始め、露店がびっしりと並んでいる。びっくりしたことに人間の頭頂骨と大腿の骨が他の工芸品と一緒に売られていること。

ミニ車やカウボーイハットを買う。早速ミニ車を回してみたが、チベット人のようにうまくできない。やっぱり信仰心がものをいうことか。

19:10～19:35 人力三輪車でホテルへ。

チベットでの最後の思いでをつくりたくて人力三輪車を頼む。若いチベット人の車夫が力強い足取りで私たちを運ってくれた。警笛は流暢な口笛だ。運賃10元とチップを5元払ったら大変喜んでくれた。本日の総収入はいくらだったろうか？

20:00 夕食

チベットに来て、初めてビールを飲む。明日はもうチベットを去る。

8月29日（木）小雨

05:20 起床

朝食なし。

06:00 ラサ空港へ向けて出発。あたりは真っ黒。

「この天気だと飛行機が飛ばない可能性があるな。」と同級生が心配そうに呟く。

07:45 空港着

黒山の人だかり。チベットが観光地化している様子が実感できる。予想通り、荒天のため、西寧から飛んできた飛行機がラサ空港に着陸できず、引き返したとのこと。2～3時間出発が遅れるとのことである。

「最悪の場合、ラサにもう一泊することになるかもしれない。」ということを知り、聞いて「神様お願い、飛行機が飛びますように」と祈るだけ。飛行機を待つ人々は、待合室でのんびりとトランプなどに興じている。郷に入れば、郷に従えだ。仕方がないから私たちも待つことにしよう。

この状況が、もし、日本の空港だったら、乗客はどのような反応を示すのだろうか……。

11:25 やっとエアバスが飛来。胸が躍る思い。残念ながら私たちの搭乗する便は次の便だそうである。まもなく2機が連続して飛来。臨時便なのである。待合室にいたあの群衆がすうかり減ってしまった。

12:25 ラサ発
8:30 出発予定だったので、約4時間の遅れである。しかし、もう安心。ただ、次の成都～西安便に乗れるかがまた心配である。

14:10 成都着 気温33℃
大急ぎで手続きする。搭乗手続き締め切り5分前のところで間に合った。万歳！ ふと気がつくとラサから持ち帰ったペットボトルが凹んでいる。改めて気圧の違いを実感する。

15:25 成都発
朝が早かったことと飛行機に間に合った安心感でお休みの時間。

16:45 西安空港着 気温36℃

17:10 西安空港発
車中、西安付近の農業について尋ねてみた。この付近は三毛作で6月には主に小麦を収穫。10月にトウモロコシを収穫。トウモロコシは殆どが家畜の飼料ということで、先にも述べたが中国の食文化が肉食志向へ変化しているのを感じ取ることができた。

18:20 「鐘楼飯店」着
到着後、しばらく休憩の後、デパートへ。

鐘楼飯店の近くに大きなデパートがある。お土産を買うにも便利。月餅やラウロン茶やらっぱい買い込む。これで日本へ帰れる。

21:10 夕食

今夜はデパ地下での晚餐である。中国語で「美食城」という、日本の屋台村といったところだろうか。

地元の料理はもちろん、全国各地の「小喫」(名物料理)が何百品も食べられる。食材も豊富。学食でこういう感じの料理が出せたらいいなと勝手に思いながら「刀削面」をはじめ、四、五品を注文。どれもうまかった。もし用事がなければ、一週間ぐらい伸ばしてこの料理を食べ尽くしてみたいなと真剣に考えた。夕食後、ホテル前の公園を散策。芝に墓を引、寝ころんでいる人が大勢いる。ここで夜を明かすのだろうか。

8月30日(金) 晴れ
8月30日(金) 晴れ

05:40 起床
7泊8日の旅も今日で終わり。今度の旅を通じて、新しい発見、感動、挫折、悲哀などいろいろ体験できた。大変だったが、楽しかったなあ。もう一度来たいと思う。次の目標はシガツェとカイラスだ。

06:20 朝食
中国に来て始めて日本のテレビを見られる。NHKの天気報によると、九州地方には台風が近づいている模様。

07:00 ホテル発
西安の鐘楼を見ながら出発。通勤客を乗せたバスが忙しそうに走る。中国のサラリーマンの定年は男性が60歳、女性が55歳である。但し、肉体労働者については男性が55歳、女性が50歳という社会主義国の平等理念は無くなりつつある。特に西安では国営企業のリストラがどんどん進んでいる。

街角のあちこちに労働者風の人々が大勢集まっている。「あの人達は何をしているのですか？」と友達。「農村から出

稼ぎに来た人と失業者が仕事を求めて集まっているのです。」と運転手。やっぱり……

07:50 西安空港着

空港自体は、結構広いが、出発ロビーは意外と狭い。

09:00 機上の人となる。

眼下には、まさに中国といえる奇岩の山並みが散見されるが、チベットの山々と比べると平凡に見えた。

10:50 青島空港着 気温26℃

空港免税店で、子供への土産として天津甘栗三箱(1,500円)、友人へ栄養クリーム一個(60元)購入。

11:50 出発

青島～福岡間 1,200km 飛行時間1時間40分の予定。

機内放送によると、福岡の天気はくもり、気温33℃とのこと。高度 8,000m の上空の下にまるで真綿のような雲海が広がる。玄界灘上空にさしかかると、白波が立っている。やはり、台風が近づいているのだ。

14:45 福岡空港着 曇天

通関はいつものように簡単だった。早速家に電話。「今晚何を食べる？」と聞かれたら、迷わず寿司だと答える私。

高速バスで一路佐賀へ。車中、一週間の疲れがどーと襲いかかってきてすぐ眠ってしまった。

夜は家族で、寿司屋に出向いた。ああー寿司も美味しい。

終わり